



のもとに盛大なる渡橋式が舉行された。

東北地方

岩手縣水澤、釜石間産業道路の改良

北海道地方

廣尾幌泉間海岸道路

十勝の廣尾と日高の幌泉を連絡する海岸道路の改良は日勝兩國多年の懸案であつたが、今回帶廣、室蘭の兩土木事務所に於て同道路の改良工事を施工することとなつた。而して帶廣土木事務所では必ず本年度中に日高との國境ベトラウンケまでの五軒八百米の改良工事を完成すべく約三百名の工手や人夫を動員し、目下海岸に面した路側の石垣築設に全力を注いでゐるが十月頃からこの區間にある大小九ヶ所のトンネル

工事に着手する豫定である。同工事に要する本年度の經費は二十二萬一千圓である。一方室蘭土木事務所は猿留川の橋梁を除いては國境まで本年度内に完成すべく全力を注いでゐる。特種の事故が発生しない限り同工事は明年初めには全通するから、日勝兩國は勿論の事本道東海岸の交通界に革命的な新生面が開かれるであらう。

美唄渡橋式

昨秋の水害で破壊された美唄町中村農場弘法橋復舊工事は此程見事に完成したので六月十五日午前十時より同橋の橋畔に於て常盤助役橋本庶務主任其他多數の來賓出席

岩手縣水澤町岩谷堂町釜石町及び上下兩村、玉里村、愛宕村、米里村、世田米去る八月二十六日岩谷堂公會堂に會合し、水澤―釜石間産業道路改良を促進するため期成同盟會を組織すると共に道路組合を設置した。上有住村地内小松土倉間の道路は本年五月に完成したのであるが、土倉、大洞間約一里は同村匡救事業として本年度中に完成の豫定である。今後の甲子村地區内を關係町村負擔の工事地とし、この割當額は工費四萬圓に對し膽江郡が四割氣仙、上閉伊兩郡が六割に決定してゐるので本年度中に着工の豫定である。

北上川に架設する岩手縣の

五橋梁

北上川は南下するにつれ川幅を増し架橋は困難であつたが、昨年匡救事業實施と共に沿岸の町村の架橋運動の結果、岩手縣當局では縣南地方の交通の利便を圖る目的を以つて左記五橋の架設或は新設を實施することとした。

◇再巡橋 金ヶ崎町と佐倉河間の國道に架り延長三百間工費廿五萬圓の内務省直營工事で去月末着工。

◇薄衣橋 薄衣彌榮間縣道工費十八萬圓延長百間幅員三間で九月中着工の豫定。

◇柳の御所橋 平泉、長島間の現在の渡船場に延長百廿間の木橋を工費二萬圓で架設するが、これは組合經營の豫定。

◇赤生津橋 前澤、生母間の町村道に架るものである、工費一萬圓の豫定で本年度匡救工事により實施の計畫で關係町村の負担割當を終つた。

◇大曲橋 これは白山、母體間縣道に架るもので工費二萬圓の木橋、同じく匡救事業費によつて捻出する事となつてゐる。

宮城縣信仰道路の改良

宮城縣外洋めぐりのドライブウエーに連絡する鹽松海岸道路が開通すると共に東北須磨の浦を以て任ずる野蒜の銀砂青松帯から大鷹森の山頂に通ずる東松島海岸道路が開通したので、松島町では古刹大仰寺や東北三觀音の一を祀つてゐる富山へ通ずる信仰道路の改良計畫を決定した。同山への道路は森知事時代巨資を投じて松島扇谿めぐりと共に磯崎濱から手檜濱に沿ふ道路が改良されたがその後人跡絶えて荒れ果てゝゐたものである、同町にある聖蹟保存會が此の計畫に賛し工費の一部を負擔する由である。従つて同道路が完成した曉には富山も松島名所の一として復活するであらふ。

宮城縣下の道路共進會

東北地方唯一の試みとして數年前から繼續開催する桃生郡北村道路共進會は、農閑期を利用し、各部落民が競ふて道路の清掃、側溝、橋梁の修理をなし、縣土木課から係官の派遣を受け、嚴密審査を遂げた結果九月九日午後一時より小學校で審査報告並びに褒賞授與式を舉行したが、本年度から優勝旗を制定したので、一層徹底した共進會で、他郡村からまで視察團が入り込んでゐる。

山形縣の榎澤橋の開通

山形縣南村山郡榎澤村では八年度救濟事業として須川の榎澤橋を架け替へ中であつたが今回見事に完成したので、九月二日午前九時より同橋々畔に於て盛大なる開通式が舉行された。同橋梁の延長は二百四メートル、幅員は三メートル二〇の木橋にして工費は二千百七十七圓である。

關東地方

茨城縣土浦高津間國道の一部竣工

茨城區八年度土木事業として着工されてゐる土浦高津間國道工事中眞鍋土浦間の工事は今回大體完成し、公會堂前の如きは見違へる程に立派になり、土浦には立派すぎる道路として非常に悦ばれてゐる右工間完工後には櫻川架橋と中家村高津に至る九百メートルの國道工事に着手され、明春二月までには全部完成する豫定である。

栃木縣の登山道路計畫

栃木縣大田原營林署では先に人跡未踏の那須山奥深山の森林調査を行つて奥那須探勝に絶好の場所と折紙をつけ近く登山路を開きとする豫定である。同登山コースは三本槍から舊會津街道の大峠を経て福島栃木兩縣境の三倉大倉兩山を結び深山に至る約

十里で完成すれば那珂川上流男鹿岳の溪流其他隠れた奥那須の名所が世に出る譯である。

群馬縣の自動車道路計畫

群馬縣吾妻郡長野原町六里ヶ原一帯の發展策として箱根土地株式會社は輕井澤仙ヶ瀧から淺間山麓鬼の押だしを経て嬭戀村大字三原まで延長一萬一千メートル幅員五間の自動車専用道路を開鑿する計畫を樹立し縣に對して認可を申請してゐた處八月十八日附許可されたので、近く着工の豫定である。

埼玉縣府中街道の擴張

埼玉縣當局では豫て入間郡隨一の悪道路である所澤町元標から補給部支部南倉庫前に至る府中街道延長六百メートルの擴張計畫を立てゝゐたが此程漸く具體化し、八月中に敷地の買収も終了したので九月早々より工事に着手することになった。

銚子市の道路網

千葉縣土木課では銚子市の發展策として同市内道路網計畫を考究中であつたが此程大體完成した。それによると銚子市の支關たる驛前から銚子汽船會社前利根川畔の海岸道路に接續する路線は幅員十二メートルに擴張舗裝し、歩車道を區別し、兩側に街路樹を植え又新生花月菓子店前から飯沼觀音前までは一直線に幅員十メートルの新路線を新設し其他の路線は擴張せずして舗裝のみを施工し、本城から利根川畔を川口に至る海岸道路は幅員十二メートルにするこゝと決定した。同路線中和田川の橋は更生橋、新生小川の橋は新興橋と岡田知事が命名した由である。

東京府淺川町の道路改良計畫

東京府下淺川町では大東京の天然公園として奥多摩と並び稱せられる奥高尾に近接

する八王子市外元八王子村北條氏昭の舊八王子城址がある城山方面の景勝地と連絡する適當な道路がないのを遺憾として將來與多摩、真高尾、城山を連絡する大山嶽公園と遊歩道の實現を期する前提に淺川驛前から帝室林野局傍を抜け城山に通ずる道路の大改修を計畫し帝室林野局並に東京府當局に改修方を陳情してゐる。此道路計畫が實現したならば高尾から城山まで約一里餘の間は自動車で行けることとなり、夏は城山、陣馬のキャムプ場所、秋は紅葉の高尾と、兩景勝地共にほとんど一年中遊覽者で賑ふであらふ。

神奈川縣瀨谷街道の起工

神奈川縣瀨谷村より大和村深見を経て瀨谷村へ通ずる愛瀬縣道たる瀨谷街道の擴張工事は大和村土屋定郎氏が請負ふことに決定したので、八月廿三日盛んなる起工式を舉行した。

神奈川縣田島縣道の第一期工事完成

神奈川縣川崎市の工場地帯と京濱國道をつなぐ川崎市の田島縣道第一期工事は昭和六年總工費百廿萬圓を以つて起工以來鋭意工事を急いでゐたが此程完成したので八月廿八日頃から自動車馬車の通行を許すこととなつた。同道路は川崎市小土呂橋から大島退分に至る延長一千四百メートル幅員十八メートルである。

北陸地方

新潟縣の國府縣道の鋪裝計畫

新潟縣土木課では過般の交通情勢調査の結果に鑑み、縣としての將來の土木政策を確立すべく研究中であつたが、縣下の國府縣道中一日に二百臺以上の自動車が通過する道路が二十九ヶ所六萬九千九百六十五メ

ートルあるが、此内二千四百六十二メートルは既に鋪裝されてゐるので残り六萬七千五百三メートルを百二十六萬六千二百三十三圓を以つて十ヶ年計畫でアスファルト鋪裝にすることに決定し、九年度事業として六萬六千圓を計上しその第一歩を踏み出せうとしてゐる。此等の道路が全部鋪裝された曉には年々道路維持修繕費や自動車のガソリン代は大いに節約され縣下の交通は非常に便利となるであらう。

新潟縣糸魚川町道路の新裝

舊臘大火に見舞はれた新潟縣糸魚川町の道路整理擴張は着々進歩し、海岸自動車道路の第一期工事が近日中に完了するのを初めとして目下着工中の第一號線（濱町―善導寺―田中町）第二號線の一部（劇場―千代の井脇）其他の路線も近く完成する豫定である。此の内最も期待されてゐるのは第一號線で將來は大明、新七の本通りに次で

の商店街になるものと見られてゐる。

新潟縣南魚沼の救農道路

工事

新潟縣南魚沼郡に於て目下工事中の八年度救農道路工事は道路四十ヶ線工費五萬八千七百圓河川五ヶ所三萬六千圓であるが、伊米ヶ崎村干溝小田線は八月廿九日竣工を完了し、東村三用浦佐線は九月初旬に竣工の豫定である。土樽村では松川橋を架設することに決定し近く着工の豫定である。其他の未着工個所に於ては農閑期になつたら本格的に着工されるであらふ。これ等の道路の改良が完成したら同郡の交通は非常に便利になるであらふ。

東山地方

山梨縣の觀光道路

山梨縣御嶽昇仙峽の天神平から和田峠ま

地方通信

での道路は匡救事業で本年中に改修され、丸山貯水池附近は荒川用水幹線改良事業で改修されるので、甲府、和田峠、昇仙峽を連絡する觀光道路の改良が要求されるに至つた。同路線は聯隊裏から通ずると武田神社横から通ずるものと二線があるが縣當局では聯隊裏道路は屈曲多く自動車通行に適しないから觀光客の便宜のため武田神社横から通ずる道路を改良することに決定した。同道路の改修については縣に豫算がないので甲府市及關係町村より改修費を支出せしめる豫定である。同道路改良の曉には昇仙峽探勝者は武田神社に參拜、丸山貯水池を觀賞し然も甲府からの最短道路で時間も節約出来るであらう。

長野縣坂戸橋の開通

昭和七年三月失業救済事業として起工された、府縣道福與飯島線上伊那郡天龍川に架設中なりし坂戸橋は本年參月見事に竣工したので同月盛大なる開通式が舉行された

同橋の工事概要は左の如し。

一 個所名並に工事種類

路線名 府縣道福與飯島線

河川名 天龍川

左岸 長野縣上伊那郡南向村

右岸 同縣同郡片桐村

工事種類 橋梁架設

二 計畫概要並に工事狀況

昭和六年度より二ヶ年繼續失業救済事業とし郡直轄を以て差工赤石山間に通ずる南アルプスの關門にして府縣道福與飯島線上伊那郡天龍川に架設せられ昭和七年三月起工し昭和八年三月竣工せるものである。

構造

橋型 固定式鐵筋混凝土拱助橋

橋長 七・六米 有効徑間 七・〇米

有効幅員 五・五米 拱矢 二・七米

全幅員 六・〇米

上部構造

混凝土量 鐵筋量

橋 助 七二・九四立米 八・六元

桁受支柱 六・三三〇〇〇〇 一〇・六〇〇〇

丁型桁 一三六・〇〇〇〇 三九・七〇〇〇

親柱、高欄 三三・三三〇〇〇 二・四四〇〇〇

及袖高欄 三三・三三〇〇〇 二・四四〇〇〇

有効幅員 五・五五米

鋪裝材料グラノリツク (厚六糎) 三・六四立米

使用材料 セメント 一七・〇〇樽 石 二五・六四立米

高欄 鐵筋混凝土

親柱混凝土 表面花崗石 張 石

下部構造 混凝土量 鐵筋量 備考

拱臺 四二・六立米 二・九元 空間中埋 栗石使用

扶壁橋臺 二四九・九〇〇 九・三〇〇 左岸高 五・五五米 右岸高 三・二五米

附帶工事

袖石積混凝土 五・五五三平米

取付道路延長 一七・〇〇米 幅員 五・五五米

上砂切取 四三・〇〇立米

軟岩切取 一三・二〇〇〇

盛土 一八・六二〇

石積混凝土 一・〇〇平米

鐵筋混凝土管(内徑一米)延長五七・〇米

築堤平均高 一・六〇米

三 工事費

上部構造 七〇・三五〇〇

下部構造 二一・三五〇〇

附帶工事 三、五七〇〇

取付道路 二五、六六〇〇

計 六八、六六〇〇

四 主要材料

品名 數量

鐵筋 一四四・〇七元

セメント 三、五八〇樽

混凝土(一・三三) 一、二六八〇立米

〃(一・三三) 五七、〇〇〇

〃(一・四四) 一五、〇〇〇

五 主要機械器具

品名 性能 數量 備考

捲揚器 一五HP 一臺 備考

錘 一〇〇キセ

基礎杭打用

ダルマジャ 一四挺 セントル組

ミツクサー 六切練 混凝土練用

水波出ポン 三〇HP 一臺 右岸拱臺基

エレベータ 一五HP 一臺 礎床掘用

捲揚器 一五HP 一臺 混凝土運搬

トローロ 五臺 取付道路土

レール(五ボンド) 一〇〇〇米 砂運搬用

六 工事執行者 長野縣 同上

七 施工方法 長野縣直營

八 起工年月日 本橋 昭和七年三月

竣工年月日 取付道路 昭和七年九月

本橋 昭和七年九月

取付道路 昭和八年三月

東海地方

静岡縣熱海の林間道路

静岡縣熱海町が計畫施行してゐた熱海驛後から十國峠中腹橋戸に至る延長六キロ(工費一萬圓)の林間自動車道路の最後の部分十澤橋戸間一キロ半の御料地通過問題

も圓滿に解決を告げ八月三十一日入札に附したので、九月中に完成させることとなつた。これによつて十國峠への新しい探勝道路が出来るのである。一方同道路と三島縣道のクロス地點から柏ノ原、水口經由錦浦に至る第二期工事は今年中に完成する豫定で第一期線と共に熱海の外廠を一周するドライブウエイが出来ることになつた。

愛知縣の産業開發道路

昭和三年以來總額六千萬圓にて二十八ヶ年の繼續事業として愛知縣産業開發の大動脈たらしめる道路網の完成を急いでゐた産業開發道路工事は六年目の今日までに既定事業を加へて一千五百萬圓を以つて延長百五十里餘の道路及び橋梁を完成し、産業交通上百パーセントの効果をあげてゐるが、百五十里の内には僅々八町の工事に二百萬圓の巨額を投じた木曾川大橋も含まれてゐる。今後二十ヶ年間に四千五百萬圓を以つ

て四百里以上の大産業道路を完成することになるが最近都市計畫事業の進捗に伴つて地方小都市も都市計畫法を實施するほか、景勝地を開發し外來客の誘致を圖らんとする折柄今後は産業開發に中心をおく道路政策に縣下各市町村間の連絡及び景勝地紹介を圖る政策を加味して計畫完成に進むことになつてゐる。

名古屋市の道路鋪裝

名古屋市の道路鋪裝第一次計畫たる豫算百十八萬九千圓の幹線道路及び基盤制道路其他の鋪裝工事は市道路線で其實施設計中であつたが此程完了したので近く請入札に附し、九月早々より着工の豫定である。その鋪裝區域は次の如くである。

高級鋪裝 府縣道瀬戸長野線、同名古屋港線、公園線、片端線、國道一號線、十二號線、水主町線、熱田驛前
簡易鋪裝 徳川線以西、長野線以東、公園線以東、車道線以西、外濠線以東、公園

線、武平町以東公園線以西、高岳南線以西、大津町以東、南大津町以西、園町以東、御園町線以西、堀川線以東、南區大津町線以西、堀川線以東

中國地方

鳥根縣松江市の都計道路網

鳥根縣松江市では大松江建設に伴ひ同市内南北大幹線路たる雜賀町地田町線雜賀町本郷町間道路新設は愈々都市計畫事業として着工されることに決定し、事業開始は十月中旬の豫定である。新設される道路は幅員二十メートル、延長二百十二メートルで、工費十萬圓の國庫補助二萬圓縣負擔三萬五千圓松江市負擔四萬五千圓の豫定である。同道路が完成したならば、新大橋架替實現と相俟つて同市の南北は完全に聯絡され、交通上非常な便宜を與へられるものと期待されてゐる。

廣島縣平野谷峠路線の改修

廣島縣雙三郡庄原町から山内北村を経て比和町へ通ずる縣道平野谷峠路線改修問題は庄原、比和兩町の提携、山内北村の受益關係者により約三萬圓の工費豫算を以つて近く着工されることに決定した。同改修路線は延長一千七百九十二メートル、幅員四メートル五十にして、比和町木屋原から比和川に沿ひ平野谷山の麓を一周し山内北村川北の中央部落へ通ずるもので、完成の曉には交通運輸上重大なる効果をもたらすであらう。

廣島縣明田橋の開通式

廣島縣安藝郡熊野町新宮原明田橋は賀茂郡熊野跡村を経て原村陸軍演習場方面に通ずる交通量のよほど多い町内一の主要橋であるが従來は木橋にして腐朽甚だしく危険を感じしめてゐたので、同町會は工費三千圓を投じ鐵筋コンクリート橋を架設するこ

とに決定し、六月一日起工したものであるが今回愈々完成したので八月廿七日盛大なる開通式が舉げられた。

廣島縣下の産業道路落成

奉告祭

廣島縣佐伯郡友和村宇峠の産業振興道路は昭和七年起工以來鋭意工事を急いでゐたが今回竣工したので、八月二十三日同村石清水神社で西村社掌が齋主となり、盛大なる落成奉告祭を執行した。

廣島縣下の道路愛護デー

廣島縣深安郡神邊町道路愛護會では八月二十七日午前六時から九時まで三時間町内全部各區長の指揮で各戸一人づゝ出勤して道路の雜掃除を行った。

四國地方

高知縣の八年度府縣道改良費

高知縣本年度時局匡救事業の府縣道二十四線路改修制當工費、國庫補助、負擔額等は左の通りである。

府縣道路事業費

市町村名	割當工費	國庫補助	地元負擔
畑山	一四、八三三	八、七〇〇	五、九三三
馬ノ上	六、〇〇〇	三、六〇〇	二、四〇〇
大杉	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	四、〇〇〇
天坪	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	四、〇〇〇
三里	七、〇〇〇	四、三〇〇	二、六〇〇
初月	三、〇〇〇	一、七〇〇	一、三〇〇
土佐山	二、六〇〇	一、六〇〇	一、〇〇〇
明治(君川郡)	二、〇〇〇	三、六〇〇	八、四〇〇
池川	二〇、〇〇〇	三、〇〇〇	八、〇〇〇
與津	一八、〇〇〇	一〇、七〇〇	七、三〇〇
橋原	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	四、〇〇〇
長者	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	四、〇〇〇
昭和	二五、〇〇〇	九、〇〇〇	六、〇〇〇
津大	三、〇〇〇	一、六〇〇	一、三〇〇
橋上	三、〇〇〇	一、七〇〇	一、三〇〇

高知 三七,000 八,000 九,000
 計 一〇,〇〇〇 一〇,000 七〇,〇〇〇

府縣道改良事業費

市町村名	割當	國庫	地元
	工費	補助	負擔
高知	四〇,000	三,六六七	一六,〇〇〇
大杉	三,〇〇〇	二,〇〇〇	
和田	五〇,000	三〇,000	二,五〇〇
		(和田村)	(五,000圓)
		(宿毛町)	(四,000圓)
吉野	一〇,000	六,000	四,000
大川	一〇,000	三,000	八,000
計	一三,〇〇〇	七,000	三五,八〇〇

右府縣道改良事業費中大杉村の分に縣費負擔が一、一六七圓、和田村の分に一、五〇〇圓計三、六六七圓である。

高知縣の土木主幹會議

高知縣では八月二十二日各土木出張所の主幹會議を縣廳に於て開催し、河合土木課長司會の下に左記事項に就て協議した。

協議事項

地方通信

一 町村匡救事業設計書未提出の状況如何
 一 匡救事業設計書附箋に對する意見を次
 同主幹會議に協議のこと
 注意事項

一 主幹會議問題は其の有無に不拘必ず會議前日までに報告すること
 一 國補災害工事に付注意事項

高知縣の一ケ年間交通事故犠牲者數

高知縣警察部は近時交通事故の頻發に鑑み土佐交通協會と提携して來る九月中旬に一週間に亘つて交通宣傳を行ひ以て危險防止を計る計畫であるが保安課において調査した所によると昨年七月より本年六月までの交通事故は

自動車二一二件△電車二八件△自動自轉車四件△自轉車八件△牛馬車三件△荷車二件△汽車五件
 計二百六十二件あつてその月別をあぐると七月二五件△八月二四件△九月二〇件

△十月一七件△十一月二九件△十二月三一件△一月一五件△二月一七件△三月二四件△四月一九件△五月一四件△六月二七件
 十二月が一番多い、そしてこの事故による死傷者數は

電車 死一人△重傷三人△輕傷二四人
 汽車 死一人△重傷二人△輕傷二人
 自轉車 重傷二人△輕傷六人
 自動自轉車 輕傷四人
 牛馬車 死一人△重傷一人△輕傷一人
 荷車 重傷一人△輕傷一人

合計五〇人の死傷者を出してゐる、尙前記事故發生數を前年の同期間に比較すると十二件の増加を來してゐる。

× × × × ×